

---

2004年3月4日(東京)

出所<sup>1</sup>: GlobespanVirata, Inc.

標題: JJ-100.01 Version 3 のスペクトル適合性許容範囲

---

## 概要

本寄書は、あらゆる保護システムに対し、スペクトル適合性認定を目的とした減衰に対する許容範囲を定めることを推奨するものである。

我々は、スペクトル適合性認定のために減衰に対する許容範囲を定め、その方針をさらに進めてこの範囲を明白に規定してあらゆる保護システムに適用していくことを推奨する。

## 1 はじめに

最近、サービスプロバイダやチップセット業者の間で行われた討議の中で、拡張システムの対処に当たり、JJ-100.01 Version 2 勧告の制限が指摘された。拡張システムは、拡張アップストリーム帯域システムとダウンストリーム拡張システム、さらには長距離の適用距離に対応するものである。

制限の一部は、厳格すぎるスペクトル適合性認定規約に起因するものである。本提案では、許容範囲を定め、妥当な範囲にまでその認定規約を緩和することを目指すものである。

## 2 許容範囲

本提案では減衰を取り入れることである。具体的には、新しい導入候補のシステムの保護システムとの間のスペクトル適合性を調査する際に、適合性の許容度を定めるために、M(a)という変動範囲を取り入れる。

保護システムの基準や最低性能に対する低下の相対的なパーセント表示により(これに限らない)、許容範囲を規定するものである。

## 3 結論 - 推奨

我々は、スペクトル適合性認定のため、減衰に対する許容範囲を定め、その方針をさらに進めて、この範囲を明白に規定してあらゆる保護システムに適用していくことを推奨するものである。

---

<sup>1</sup> 連絡先:

Patrick DUVAUT: [pdu@globespanvirata.com](mailto:pdu@globespanvirata.com); Tel: 1 732 345 6119

Massimo SORBARA : [msorbara@globespanvirata.com](mailto:msorbara@globespanvirata.com); Tel : 1732 345 7535

Andrew KLAUS : [aklaus@globespanvirata.com](mailto:aklaus@globespanvirata.com); Tel : 81-905-330-8015